

科目名	J 8 - A A 日本の社会と文化 A		
担当者	武田 聡子 (Takeda, Satoko)		
開講学期	春学期	単位数	2 単位

授業の目標

社会問題、芸能文化など日本の文化・社会に関する様々なトピックをとりあげ、それについて理解を深めながら、日本語による受発信力をつける。

授業の内容

社会問題、芸能文化など日本の文化・社会に関する様々なトピックをとりあげ、それに関する文献を読んだり、ビデオを見たりする。講義も行うが、主としてテーマについてのディスカッションやプレゼンテーションを中心とした授業を行い、課題設定能力も高める。最後にまとめとしてプレゼンテーションまたはレポートを課す。

授業計画

1. 授業概要
2. トピック1ー①
3. トピック1ー②
4. トピック1ー③
5. トピック1ー④
6. トピック2ー①
7. トピック2ー②
8. トピック2ー③
9. トピック2ー④
10. トピック3ー①
11. トピック3ー②
12. トピック3ー③
13. トピック3ー④, プレゼンテーション①
14. プレゼンテーション②

準備学習

必要な準備学習については、毎回の授業で指示する。

成績評価方法・基準

授業への参加度 25%, 課題・宿題 45%, 期末レポートまたはプレゼンテーション 30%

テキスト

指定しない。必要なものは適宜配布する。

参考文献

指定しない。適宜紹介する。

準備学習・その他(HPなど)

必要な準備学習については、毎回の授業で指示する。

授業開始後にスケジュールや内容を調整する場合がある。

科目名	J 8－A B（日本の社会と文化B）		
担当者	高嶋 幸太(Takashima, Kota)		
開講学期	秋学期	単位数	2 単位

授業の目標

時事問題など日本の文化・社会に関する様々なトピックをとりあげ、それについて理解を深めながら、日本語による受発信力をつける。

授業の内容

時事問題など日本の文化・社会に関する様々なトピックをとりあげ、それに関する文献を読んだり、ビデオを見たりする。講義も行うが、主としてテーマについてのディスカッションやプレゼンテーションを中心とした授業を行い、課題設定能力も高める。最後にまとめとしてプレゼンテーションまたはレポートを課す。

授業計画

1. 授業概要
2. トピック1－①
3. トピック1－②
4. トピック1－③
5. トピック1－④
6. トピック2－①
7. トピック2－②
8. トピック2－③
9. トピック2－④
10. トピック3－①
11. トピック3－②
12. トピック3－③
13. トピック3－④，プレゼンテーション①
14. プレゼンテーション②

準備学習

必要な準備学習については、毎回の授業で指示する。

成績評価方法・基準

授業への参加度 25%，課題・宿題 45%，
期末レポートまたはプレゼンテーション 30%

テキスト

指定しない。必要なものは適宜配布する。

参考文献

指定しない。適宜紹介する。

準備学習・その他(HPなど)

必要な準備学習については、毎回の授業で指示する。

授業開始後にスケジュールや内容を調整する場合がある。

科目名	J8-A C (日本の社会と文化C)		
担当者	小林 友美 (Kobayashi, Tomomi)		
開講学期	秋学期	単位数	2 単位

授業の目標

日本の企業風土、日本的経営、日本式サービスなど日本での就職に関心がある学生にとって有用なトピックをとりあげ、それらの知識を獲得すると同時に、高度な文型や語彙を増やし、日本語による受発信力をつける。

授業の内容

「日本の企業風土」「日本的経営」「日本型サービス」をトピックとして取り上げ、ゲストスピーカーとして招き、ゲストスピーカーからの講義を軸として授業を進める。授業で扱うトピックについて理解を深めると同時に、それらのトピックを語る際に使われる語彙や文型について学び、使う課題も行う。ゲストスピーカーによる講義の前には事前学習として、それぞれのトピックについての基本的知識や専門的な語彙や文型を学び、講義の後には、内容理解やディスカッションを行い、レポート作成などを行う。事前学習、ゲストスピーカーによる講義、事後学習という流れの中で学ぶことが重要であるため、責任を持って授業に参加できる者の履修を望む。

授業計画

1. 授業概要、「日本の企業風土」事前学習
2. ゲストセッション①
3. 「日本の企業風土」事後学習①
4. 「日本の企業風土」事後学習②
5. 「日本的経営」事前学習
6. ゲストセッション②
7. 「日本的経営」事後学習①
8. 「日本的経営」事後学習②
9. 「日本式サービス」事前学習
10. ゲストセッション③
11. 「日本式サービス」事後学習①
12. 「日本式サービス」事後学習②
13. まとめ・振り返り

準備学習

必要な準備学習については、毎回の授業で指示する。

成績評価方法・基準

授業への参加度 30%、宿題 25%、
小レポート(3回) 45%

テキスト

指定しない。必要なものは適宜配布する。

参考文献

指定しない。適宜紹介する。

準備学習・その他(HPなど)

必要な準備学習については、毎回の授業で指示する。

ゲストスピーカーとの調整により、扱うトピックの順番を変更する可能性がある。

J6~J8 の学生が履修することができる。

科目名	J 8 - B A (社会の中の日本語 A)		
担当者	沢野 美由紀 (Sawano, Miyuki)		
開講学期	春学期	単位数	2 単位

授業の目標

流行語、擬音語・擬態語など、社会言語学的側面から日本語についての理解を深めるとともに、日本語による受発信力をつける。

授業の内容

擬音語・擬態語、様々な感情表現、微妙なニュアンスを表す副詞、位相など、日本語の特徴的な側面を取り上げ、それについての論文を読んだり、調査をしたりする。課題設定能力を高め、大学での学びに必要となる日本語運用力を向上させる。

具体的には、日本語の特徴的な1つの側面を取り上げ、それについて、論文を読んだり複数の事例に触れたりした後、ディスカッションしながら、理解を深めていく。また、学んだ語彙や表現などを使用した文章の作成などを通して、より高度で自然な日本語運用能力を身につける。最後には、テーマに関するトピックについて自分で調べたものをプレゼンテーションし、さらにレポートにまとめる。

授業計画

1. 授業概要、敬語
2. 配慮表現①
3. 配慮表現②
4. 配慮表現③
5. 配慮表現④
6. 擬音語・擬態語とは
7. 小説の中の擬音語・擬態語①
8. 小説の中の擬音語・擬態語②
9. 小説の中の擬音語・擬態語③
10. いろいろな分野に見られる擬音語・擬態語①
11. いろいろな分野に見られる擬音語・擬態語②
12. ブックレポート①
13. ブックレポート②
14. 最終発表

準備学習

必要な準備学習については、毎回の授業で指示する。

成績評価方法・基準

授業への参加度 30%,
プレゼンテーション 35%, レポート・宿題 35%

テキスト

指定しない。必要なものは適宜配布する。

参考文献

指定しない。適宜紹介する。

準備学習・その他(HPなど)

授業開始後にスケジュールや内容を調整する可能性がある。

科目名	J 8－B B（社会の中の日本語B）		
担当者	小森 由里 (Komori, Yuri)		
開講学期	秋学期	単位数	2 単位

授業の目標

役割語,インターネットの日本語など,社会言語学的側面から日本語についての理解を深めるとともに,日本語による受発信力をつける。

授業の内容

日本語の特徴的な側面として,若者言葉,メール文体,人の呼び方,役割語を取り上げ,それについての文章を読んだり,調査したりする。具体的には,日本語の特徴的な1つの側面を取り上げ,それについて論文を読んだり,複数の事例に触れたりした後,ディスカッションしながら理解を深めていく。また,学んだ語彙や表現などを使用した文章の作成などを通して,より高度で自然な日本語運用能力を身につける。最後には,テーマに関するトピックについて自分で調べたものをプレゼンテーションし,さらにレポートにまとめる。

授業計画

1. 授業概要, 若者ことば①
2. 若者ことば②
3. メールの文体①
4. メールの文体②
5. 呼称①
6. 呼称② ブックレポート
7. 呼称③ ブックレポート
8. 役割語①
9. 役割語②
10. 役割語③
11. 役割語④
12. 役割語⑤
13. 役割語 まとめ 最終発表
14. 最終発表

準備学習

必要な準備学習については,毎回の授業で指示する。

成績評価方法・基準

授業への参加度 30%,
プレゼンテーション 35%, レポート・宿題 35%

テキスト

指定しない。必要なものは適宜配布する。

参考文献

指定しない。適宜紹介する。

準備学習・その他(HPなど)

授業開始後にスケジュールや内容を調整する可能性がある。

科目名	J 8－C（論文読解の技法）		
担当者	谷 啓子 (Tani, Keiko)		
開講学期	春学期	単位数	2 単位

授業の目標

様々な分野の学術論文を読み,日本語の学術論文の構成をつかむとともに,論文で用いられる様々な表現を理解することに重点を置きながら,日本語による受発信力をつける。

授業の内容

参加者の専門に沿った学術論文を数編選び,「構成」「スタイル」「語彙」「文型」「文末表現」「引用の仕方」「参考文献の提示方法」などの点に留意しながら読む。また,読み取った内容を簡潔に要約する訓練も行う。

参加者の専門ごとに,学術論文を数編ずつ選び,日本語学術論文の特徴に留意しながら読む。毎週1つの論文を読み(宿題),その論文から読みとれる日本語論文の特徴について講義およびディスカッションを行う。論文独特の語彙や表現については,例文などを提示しながら短文作成を行う。さらに,いくつかの論文については要約を行い,読み取った内容を簡潔にまとめる練習も行う。

授業計画

1. 授業概要, 論文とは, 文献検索
2. サンプル論文の分析
3. サンプル論文と各学生が持ってきた論文(モデル論文)の分析
4. 各自のモデル論文についての発表
5. 序論の構成, 先行研究
6. モデル論文の序論についての発表, 本論について
7. 本論の構成
8. モデル論文の本論についての発表
9. 結論について
10. レジューメの作り方①
11. レジューメの作り方② 参考文献リスト
12. 口頭発表のしかた, レジューメ作成
13. 担当論文最終発表①
14. 担当論文最終発表②, 振り返り

準備学習

必要な準備学習については,毎回の授業で指示する。

成績評価方法・基準

授業への参加度 30%,
宿題・提出物など 45%,
論文のレジューメ発表 25%

テキスト

指定しない。適宜紹介する。

参考文献

浜田麻里・平尾得子・由井紀久子(1997)『大学生と留学生のための論文ワークブック』くろしお出版

準備学習・その他(HPなど)

必要な準備学習については,毎回の授業で指示する。

科目名	J 8－D（論文作成の技法）		
担当者	谷 啓子(Tani, Keiko)		
開講学期	秋学期	単位数	2 単位

授業の目標

卒業論文や学術論文など、レポートよりも長く、学術的な論文の書き方について学ぶことに重点を置きながら、日本語による受発信力をつける。

授業の内容

日本語の論文の構成、スタイル、使用される語彙や接続表現、文型の特徴について学び、自らがそれらを用いて構成の組み立てや短文作成などを行う。その後、実際の論文作成を行い、実践力をつける。講義も行うが、参加者自身の論文作成に基づいた授業を行い、ピア・エディティングも行う。

毎回、「課題設定」「論文構成」「引用」「接続表現」などのテーマを決め、そのテーマに沿った学習および短文作成を行う。随時、論文要約なども取り入れながら、作成する文章を徐々に長く、高度なものにしていき、最終的には1つの研究計画書の完成を目指す。参加者それぞれが問題意識を持ち、自分の間違いに気づき、それを修正していくスキルが身につくように授業を行う。

学術論文、卒業論文の作成に困難を感じている者には特に履修をすすめる。

授業計画

1. 授業概要、研究論文を探す、論文とは何か
2. 各自が選んだ論文(担当論文)の紹介、全体構成の確認
3. 序論の構成と表現
4. 発表①、本論・結論の構成と表現
5. 本論・結論の構成と表現
6. 研究計画書を読む、自分の研究動機から研究課題を考える
7. 発表②、論文の表現:引用・参考文献の書き方
8. 先行研究を探す、参考文献メモの作成
9. 参考文献メモの作成
10. 論拠、調査方法の検討

11. 研究計画書①

12. 研究計画書②

13. 発表③

14. 振り返り

準備学習

準備学習については毎回の授業で指示する。

成績評価方法・基準

授業への参加度 30%、課題 30%、
最終課題 40%

テキスト

指定しない。必要なものは適宜配布する。

参考文献

大島弥生他(2014)『ピアで学ぶ大学生の日本語表現(第2版)』ひつじ書房、北原保雄監(独)日本学生支援機構・東京日本語教育センター(2009)『実践研究計画作成法』凡人社、クラスで適宜紹介する。

準備学習・その他(HPなど)

必要な準備学習については、毎回の授業で指示する。
履修者の年次や既習内容によって進度や内容を変更する場合がある。

科目名	J 8－E A（キャリアの日本語A）		
担当者	春学期：井上 玲子 (Inoue, Reiko) 秋学期：佐々木 藍子 (Sasaki, Aiko)		
開講学期	春学期・秋学期	単位数	各 2 単位

授業の目標

日本の就職活動の全体の流れや要点を理解するとともに、エントリーシートの書き方（効果的な構成、適切な文体や語彙等）、面接で求められる日本語（適切な応対、マナー）など、実質的な日本語スキルの獲得を目指す。

授業の内容

就職活動に必要な日本語に関連する様々な事柄―「エントリーシートの書き方」「自己PRの仕方」「集団面接の受け方」「個人面接の受け方」などを実践的に学ぶ。さらに、面接に行く際のマナーなどについても学ぶ。

実際に自分で何度もエントリーシートを書いたり、発表したりする活動を行う。そして、それに対するフィードバックをクラスメート、および教員から受けることでスキルアップを目指す。また、様々なタイプの面接練習も行う。さらに、学外から留学生の就職活動に携わるゲストを招き、就職活動の概要に関する説明を聞き、就職活動全体の流れや要点を学ぶ。

授業計画

1. 授業概要 日本での就職活動の概要
2. 自己分析① 敬語
3. 自己分析②
4. エントリーシート①
5. エントリーシート②
6. 履歴書
7. 業界、企業分析
8. 志望動機①
9. 志望動機②
10. ゲストスピーカー
11. ビジネスマナー
12. 面接①
13. 面接②
14. 期末テスト

準備学習

必要な準備学習については、毎回の授業時に指示する。

成績評価方法・基準

授業への参加度 30%,
提出物・授業内課題 40%,
期末テストまたはレポート 30%

テキスト

指定しない。必要なものは適宜配布する。

参考文献

必要なものは授業で紹介する。

準備学習・その他(HPなど)

必要な準備学習については、毎回の授業で指示する。
ゲストセッションの日は変更の可能性がある。
またこれに伴うスケジュールの変更の可能性もある。

科目名	J 8－E B（キャリアの日本語B）		
担当者	春学期：小松 満帆 (Komatsu, Maho) 秋学期：井上 玲子 (Inoue, Reiko)		
開講学期	春学期・秋学期	単位数	各 2 単位

授業の目標

就職試験で出題される日本語関連項目（敬語や四字熟語、慣用表現等）について学びながら、日本で行われる就職試験を理解する。また数多くの問題に触れることによって日本語や日本文化・社会についての知識を増やす。

授業の内容

就職試験の国語分野、常識分野の試験問題を数多く解き、それについての説明を受けることで、日本の就職試験の傾向を知ると同時に、対応スキルを身につける。

就職試験問題を数多く知るために、毎回、たくさんの問題に取り組む。効率的に授業をすすめるために、宿題としても試験問題を課し、授業中は解説や質問対応などにより多く時間を割く。個々の試験問題についての解説なども行うが、主として参加者が積極的に与えられた問題に数多く取り組み、それを通して就職試験について「知ろう」とする姿勢が必要である。

授業計画

1. 授業概要、留学生の就職について
2. 同意語、反意語、同音異義語
3. 2語の関係、漢字書き取り
4. ことわざ、慣用句、故事成語
5. 難読漢字、間違えやすい漢字、漢字選択、複数の意味
6. 部首、仮名遣い、名言・名句、和歌、俳句
7. 四字熟語
8. 敬語、文法、手紙文
9. 文学作品
10. 文章並び替え
11. 読解(短文・中文・長文)
12. 読解(短文・中文・長文)
13. 模擬問題
14. 期末テスト

準備学習

必要な準備学習については、毎回の授業で指示する。

成績評価方法・基準

授業への参加度 30%、提出物・授業内課題（小テスト、模擬問題を含む）40%、期末テスト 30%

テキスト

指定しない。必要なものは適宜配布する。

参考文献

指定しない。適宜紹介する。

準備学習・その他(HPなど)

必要な準備学習については、毎回の授業で指示する。

授業開始後にスケジュールや内容を調整する場合がある。

科目名	J 8 - F A (ビジネスのための口頭運用力 A)		
担当者	春学期：佐々木 藍子 (Sasaki, Aiko) 秋学期：小林 友美 (Kobayashi, Tomomi)		
開講学期	春学期・秋学期	単位数	各 2 単位

授業の目標

日本語の談話の特徴について理解を深めるとともに、敬語や待遇表現など、日本企業で働く際に必要となる口頭運用力を身につける。

授業の内容

ビジネス場面で必要とされる構文または談話レベルの口頭運用力—敬語や待遇表現—について、電話応対、依頼など実際の場面を設定して実践的に学び、それが使えるように練習する。

授業計画

1. 授業概要, 紹介
2. 会議①提案・申し出
3. 会議②説明
4. 会議③賛成・反対
5. 会議④質疑応答
6. RPテスト
7. 電話応対①
8. 電話応対②
9. RPテスト
10. 商談①指示
11. 商談②訪問
12. 商談③依頼・断り
13. 商談④お詫び(クレーム処理)
14. 聴解テスト, RPテスト, 振り返り

授業時間外(予習・復習)の学習

毎回の授業で周知する。

成績評価方法・基準

授業への参加度 20%, 授業内課題 40%, テスト 40%

テキスト

特に指定しない。

参考文献

瀬川由美他(2008)『人を動かす！実戦ビジネス日本語会話 上級』スリーエーネットワーク, 宮崎道子他(2009)『にほんごで働く！ビジネス日本語 30 時間』スリーエーネットワークなど

準備学習・その他(HPなど)

科目名	J 8－F B（ビジネスのための口頭運用力B）		
担当者	春学期：平山 紫帆 (Hirayama, Shiho) 秋学期：平山 紫帆 (Hirayama, Shiho)		
開講学期	春学期・秋学期	単位数	各 2 単位

授業の目標

ビジネスで必要とされる談話レベルの日本語力を、ソリューション・デザイン型活動を通して身につけ、より高度なビジネス日本語運用能力の獲得を目指すとともに、日本でのビジネスの進め方への理解を深める。

授業の内容

意思決定と問題解決のための課題をソリューション・デザイン型活動で行い、その過程の中で、ビジネス場面で必要とされるプレゼンテーションの仕方や交渉の技術などのスキルアップを目指す。

授業計画

1. 授業概要,
ソリューション・デザイン型活動とは
2. プレセッション
3. テーマ1 事前活動
4. テーマ1 ソリューション・デザイン型活動①
5. テーマ1 ソリューション・デザイン型活動②
6. テーマ1 ソリューション・デザイン型活動③
7. テーマ1 成果発表
8. テーマ1 振り返り
9. テーマ2 事前活動
10. テーマ2 ソリューション・デザイン型活動①
11. テーマ2 ソリューション・デザイン型活動②
12. テーマ2 ソリューション・デザイン型活動③
13. テーマ2 成果発表
14. テーマ2 振り返り

授業時間外(予習・復習)の学習

毎回の授業で周知する。

成績評価方法・基準

授業への参加度 10%, 授業内課題 50%, 成果発表 40%

テキスト

特に指定しない。

参考文献

授業の際に適宜紹介する。

準備学習・その他(HPなど)

科目名	J 8 - G (ビジネスメールと文書)		
担当者	春学期：谷 啓子 (Tani, Keiko) 秋学期：谷 啓子 (Tani, Keiko)		
開講学期	春学期・秋学期	単位数	各 2 単位

授業の目標

日本語の書き言葉によるコミュニケーションについての理解を深めながら、ビジネスメール、報告書、依頼状などの様々なビジネス文書の読み方、書き方について学び、使えるようになる。

授業の内容

日本で就職したり、日系企業で働いたりする際に必要となるビジネス文書の読解や作成について、具体例を挙げながら実践的に学び、実際にビジネス文書が読め、作れるところまで練習する。

ビジネス場面で使われる様々な文書(報告書、提案書、依頼書など)の実例を使い、形式や語彙、文型などについて学ぶ。さらに、参加者自らがビジネス文書を作成し、学んだ語彙や文型などを使えるようになるまで繰り返し練習する。

実際の文書だけでなく、ビジネスでメールを使う際の形式やルール、マナーについても学び、様々な場面を設定して実際にメール作成を行う。

授業計画

1. オリエンテーション, 自己紹介, ビジネスメール・ビジネス文書の基本①
2. ビジネスメール・ビジネス文書の基本②
3. お知らせ(社内)
4. お知らせ(社外)
5. お知らせ(社外)
6. 送付依頼・発注
7. 納期延長依頼・通知, 在庫照会
8. 照会(商品未着/数量不足)・クレーム, お詫び
9. 社内会議
10. 講演依頼
11. 稟議書
12. 報告書

13. 紹介依頼

14. 出張報告, 振り返り

準備学習

必要な準備学習については、毎回の授業で指示する。

成績評価方法・基準

授業への参加度 30%,
授業や宿題などで作成する文書・メール 50%,
最終課題として提出する文書・メール 20%

テキスト

山辺真理子他(2014)『タスクで学ぶ 日本語ビジネスメール・ビジネス文書』スリーエーネットワーク

参考文献

必要なものは授業で紹介する。

準備学習・その他(HPなど)

授業開始後にスケジュールや内容を調整する可能性がある。